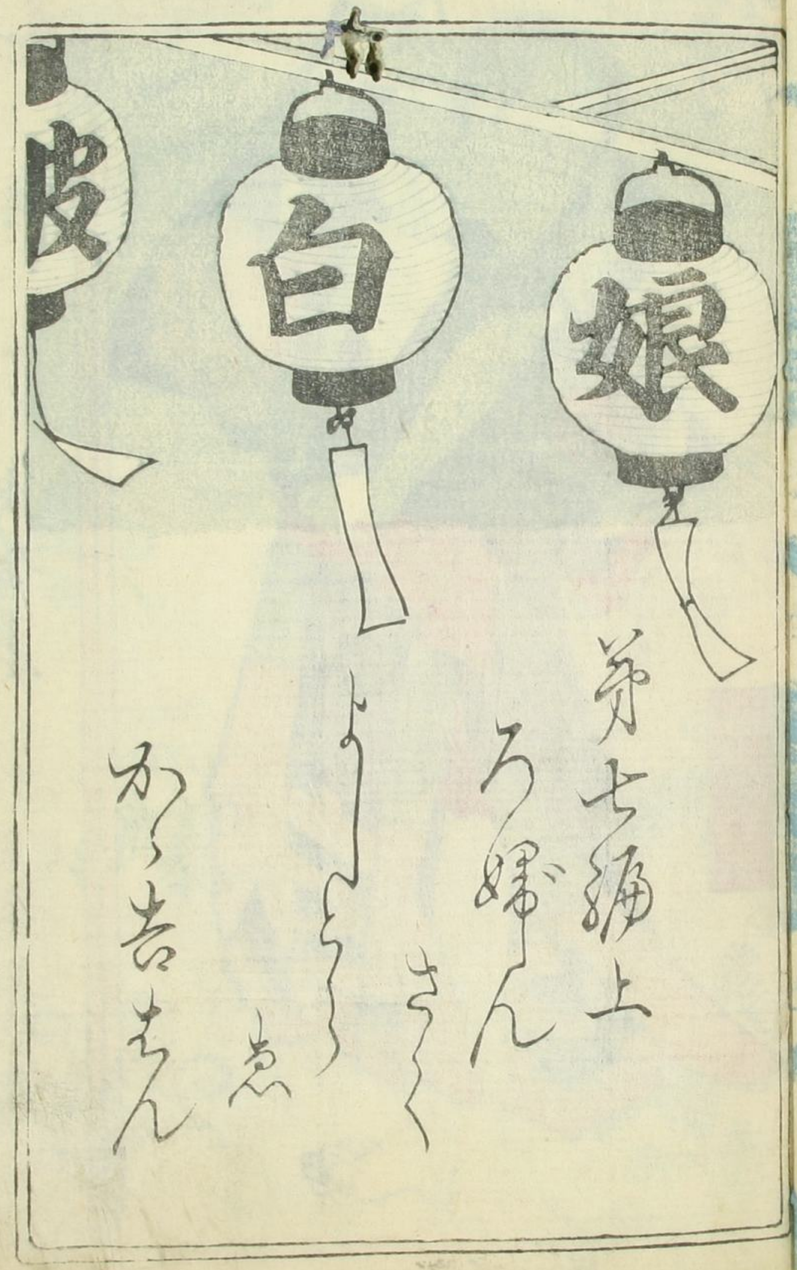
蒔絵師
野矢蒔七郎
乃文作より席画

青雲堂
秀梓


皮
白
娘
第七編上
乃婦人
さく
よりとも
志
かゝ吉さん

娘
綿
白
波
假名垣魯文作
孟齋芳虎画
青盛堂梓
七編下
薄
雪女
七編上

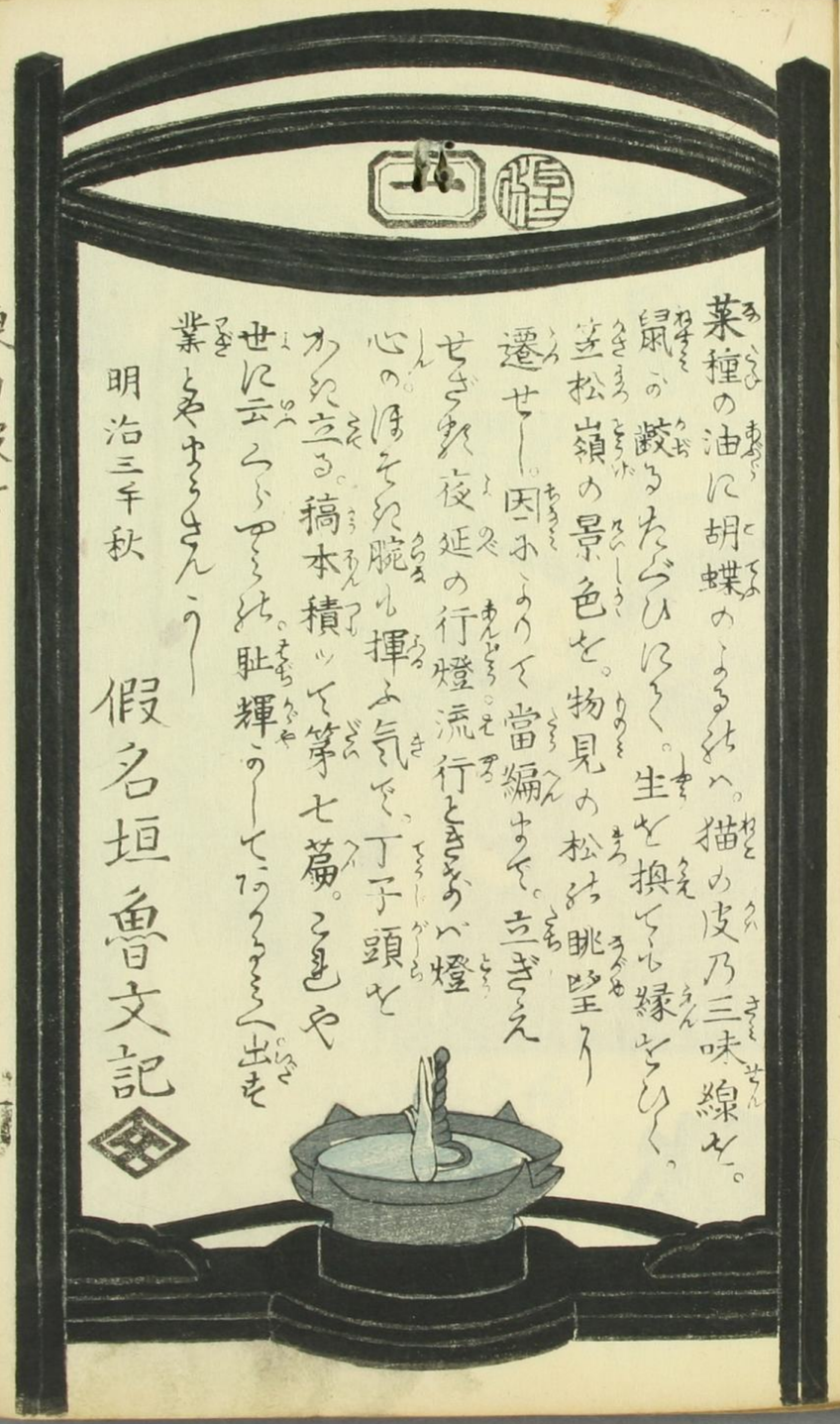
唐縁娘志波

第七編の下卷

かゝ亭垣作

よし虎画

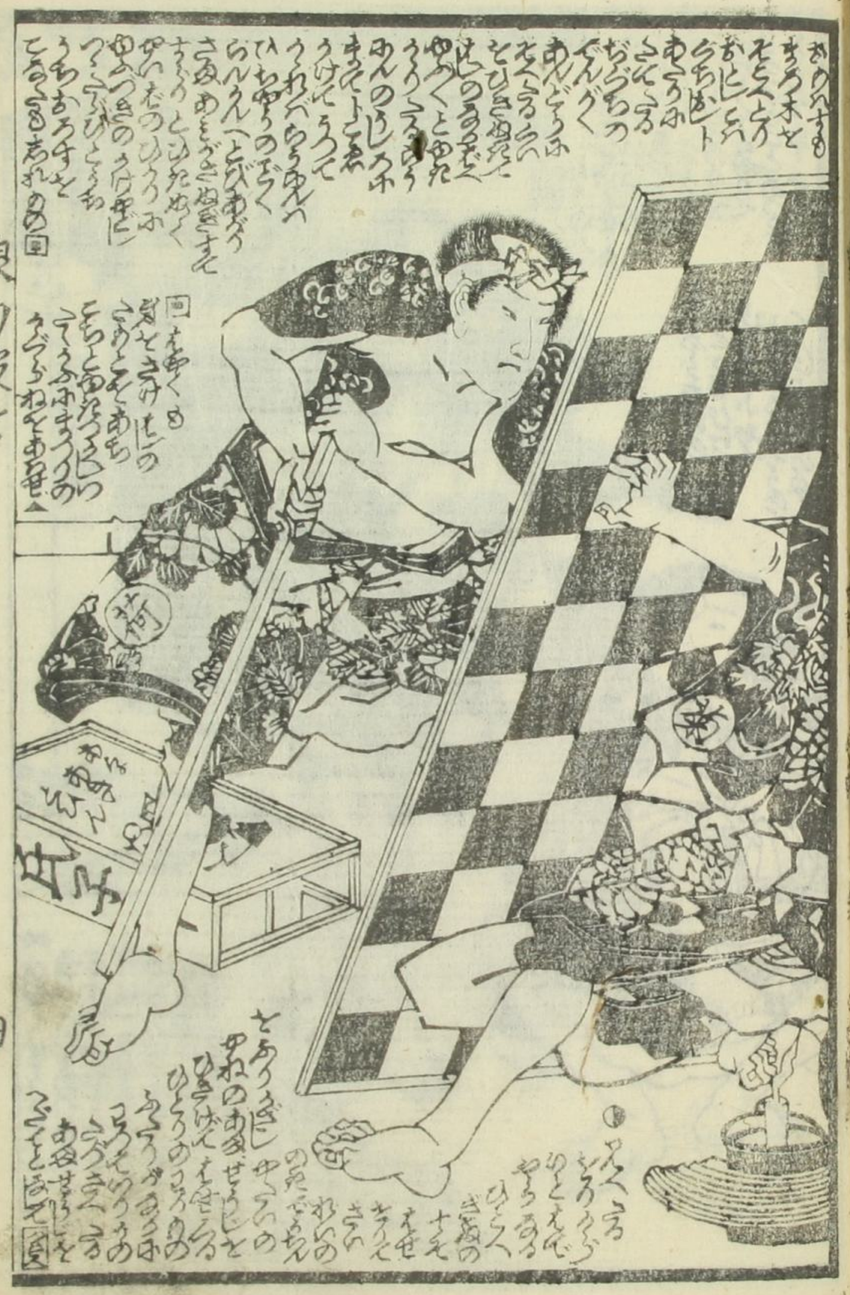
青盛文庫



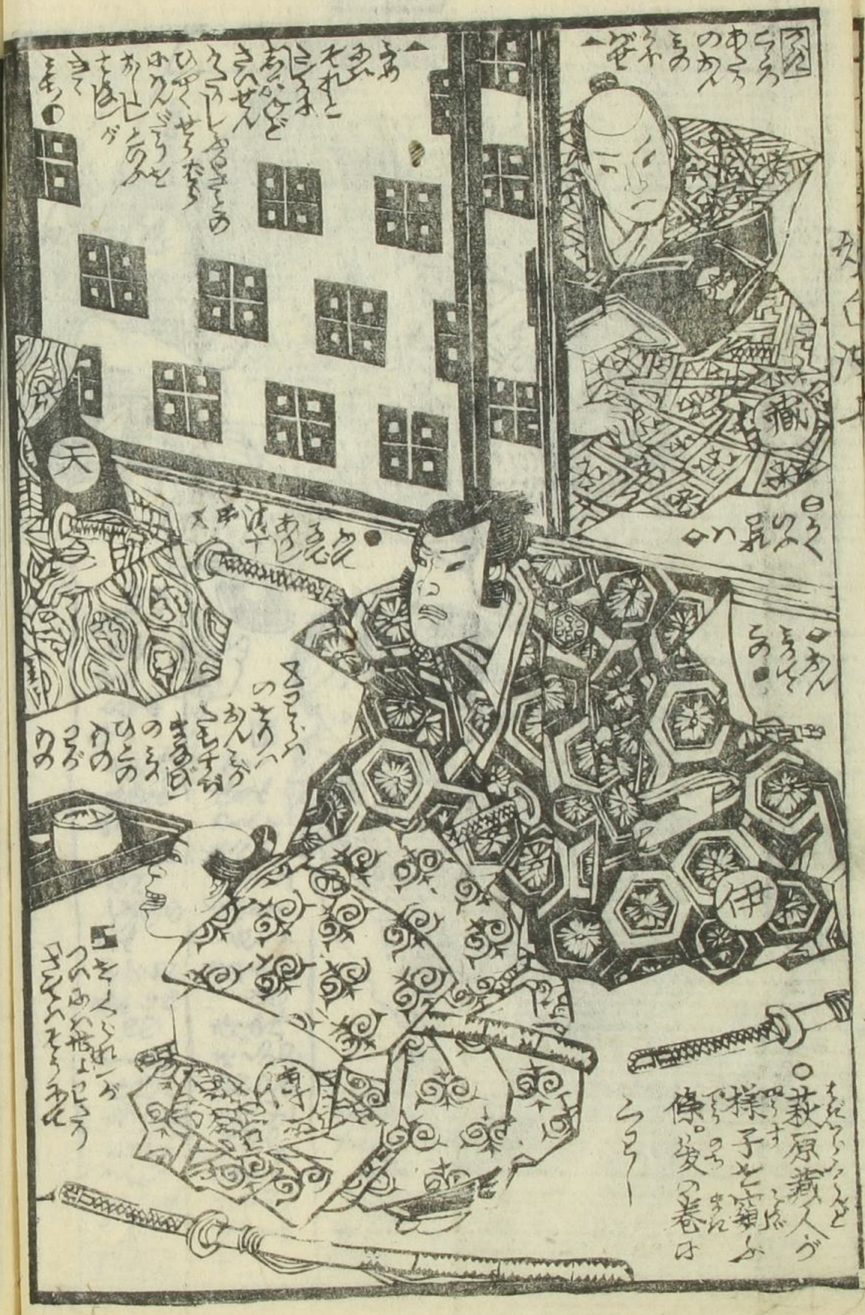
菜種の油に胡蝶のよるたゝへ。猫の皮乃三味線も。鼠の齧るたゞひとつく。生を換てゝ縁をひく。笠松嶺の景色を。物見の松は眺望り遷せし。因ふ〻て當編はて。立ぎえ七ぎ夜延の行燈流行ときゝのべ燈心のほそ〻腕も揮ふ気を。丁子頭を加へ立る。稿本積ッて第七篇。こゝを世に云ふ〻ッた。肚輝この〻てたゞ〻〻〻出を業とゝまゝさんう〻

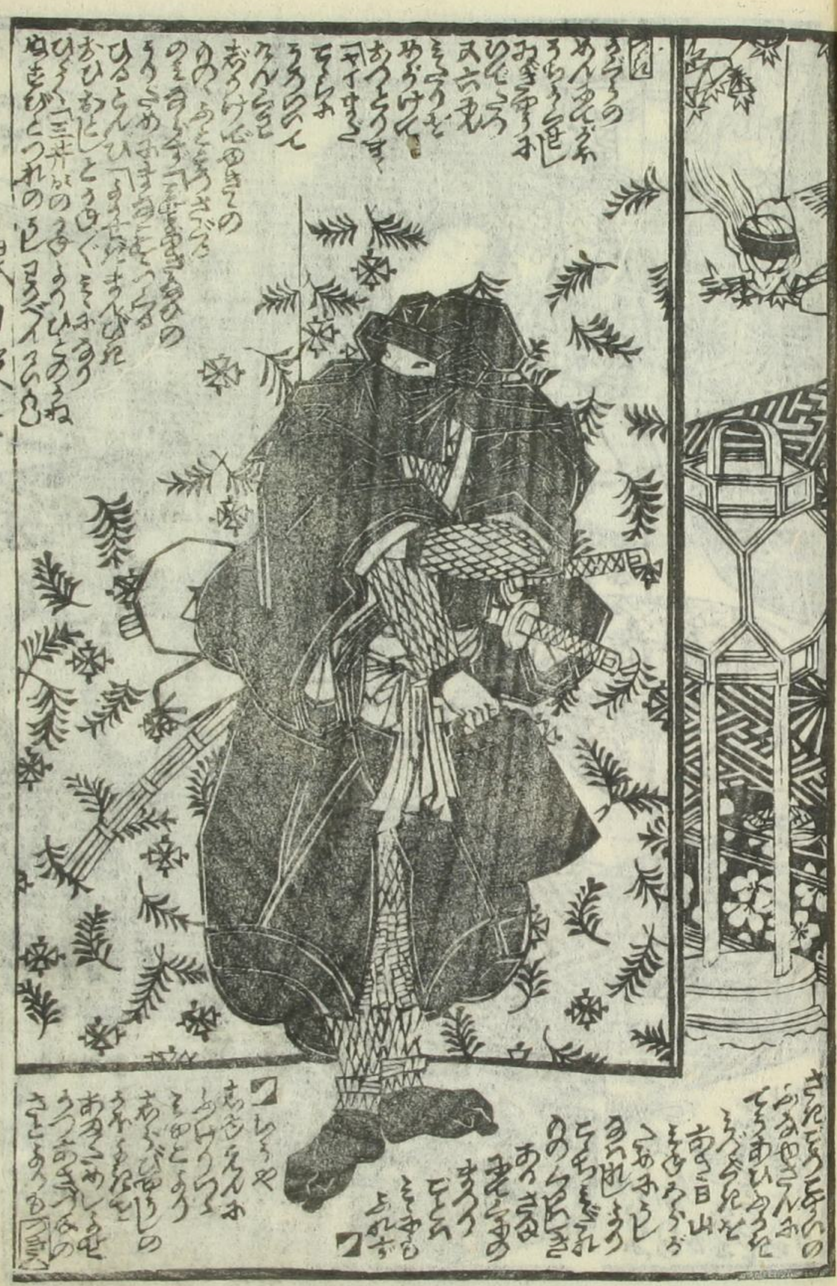
明治三年秋　假名垣魯文記

源


将

笠松鬼神
娘白波
松林亭
伯圓
天神橋

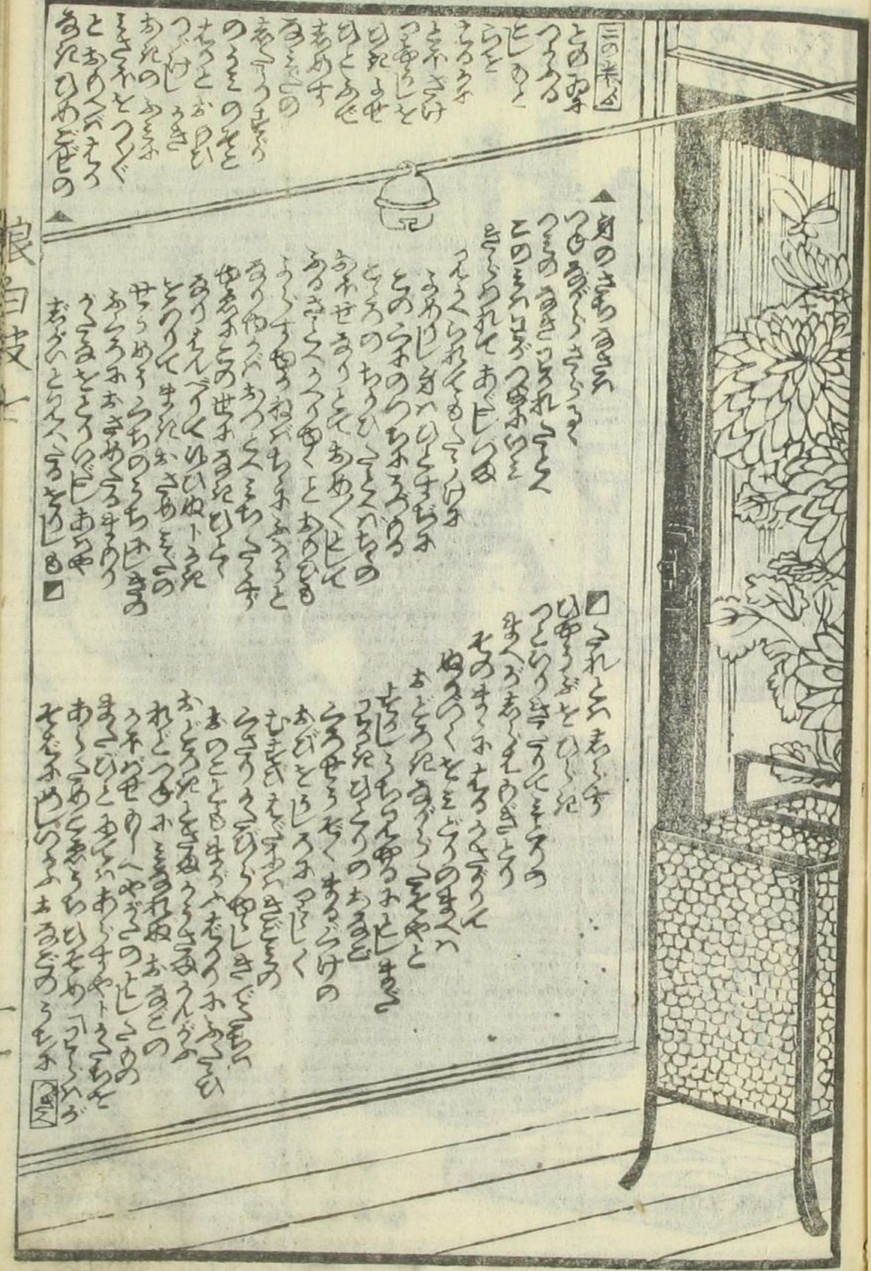

藏
天
伊



梅
竹

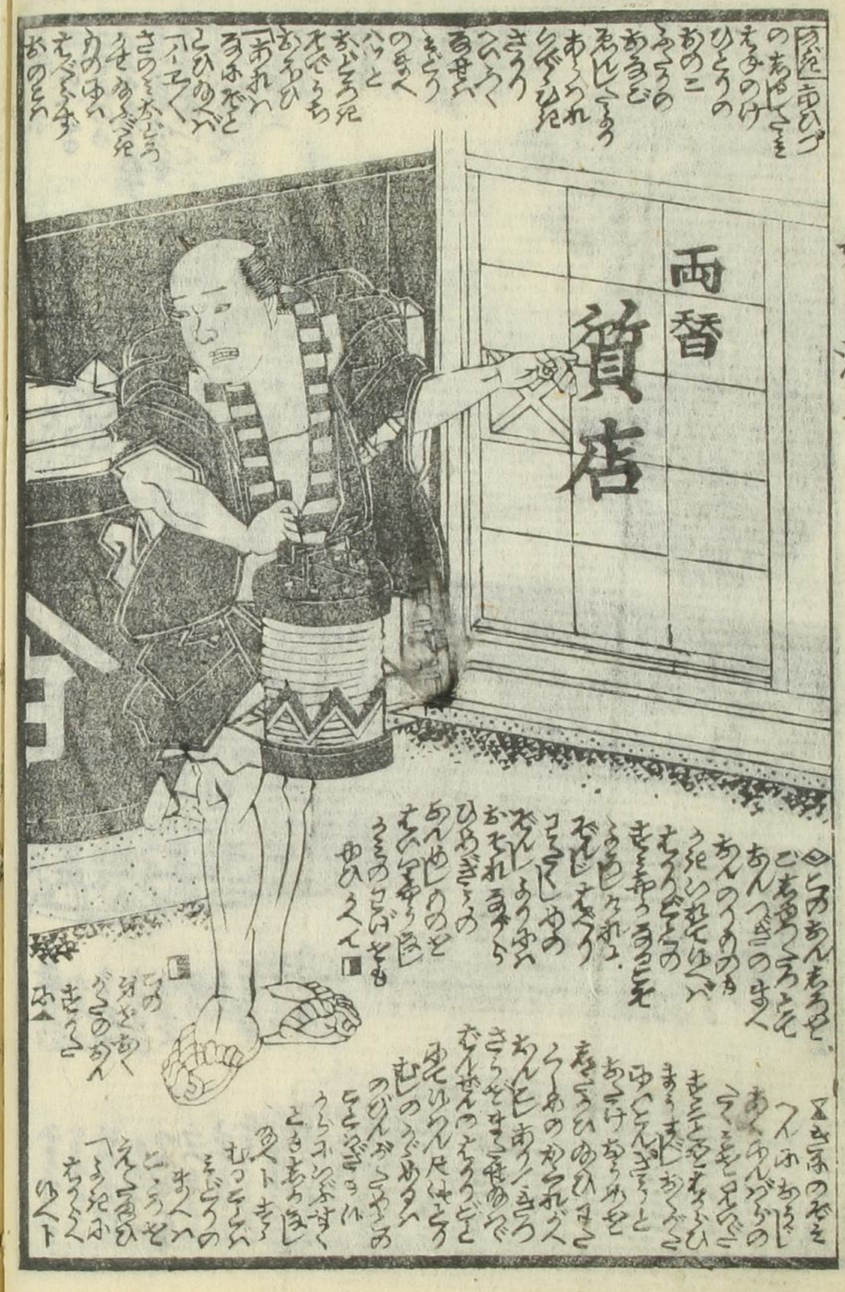
梅

芳虎画
魯文作

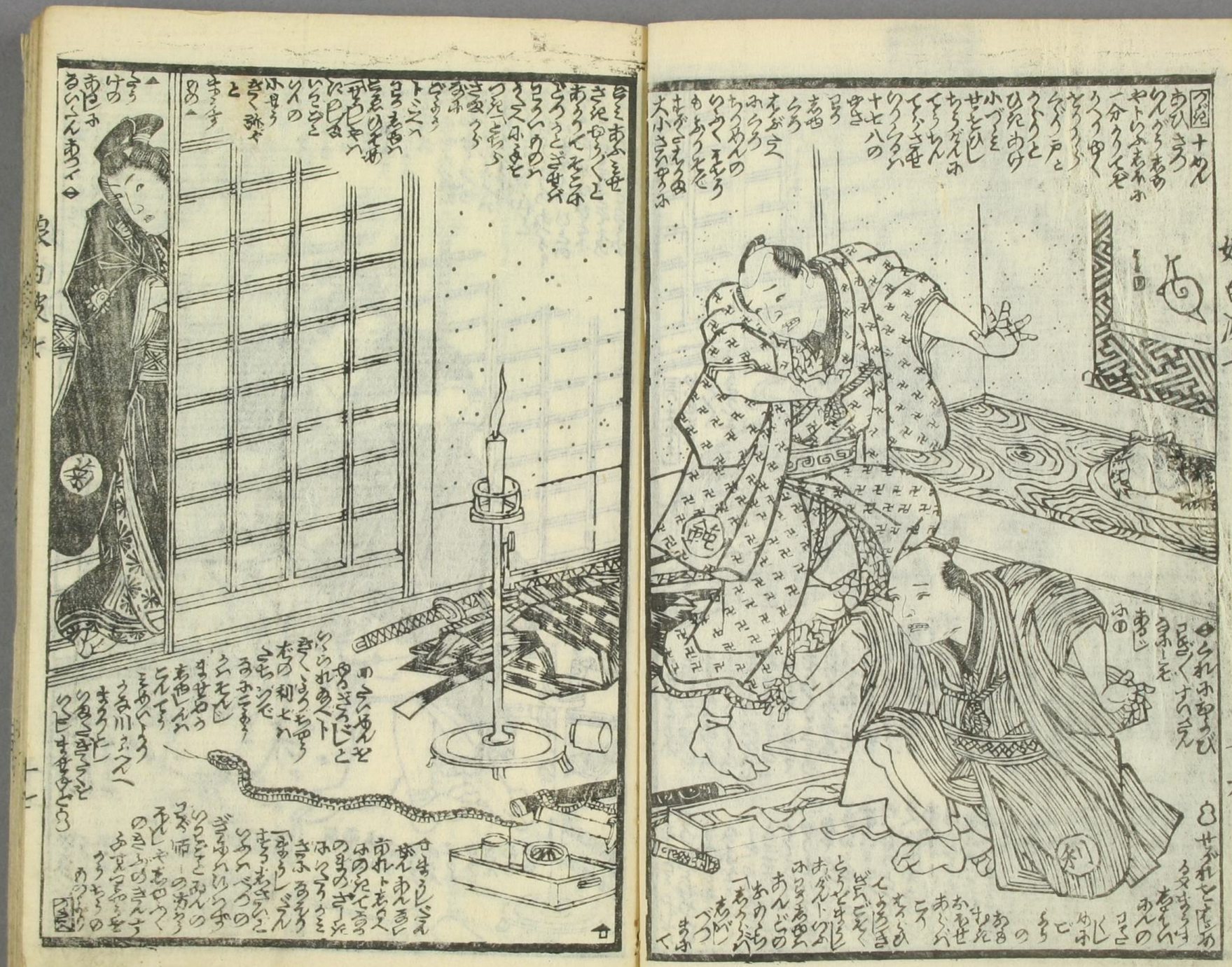


松
梅

竹


西晉
質店

八ツ月限和流

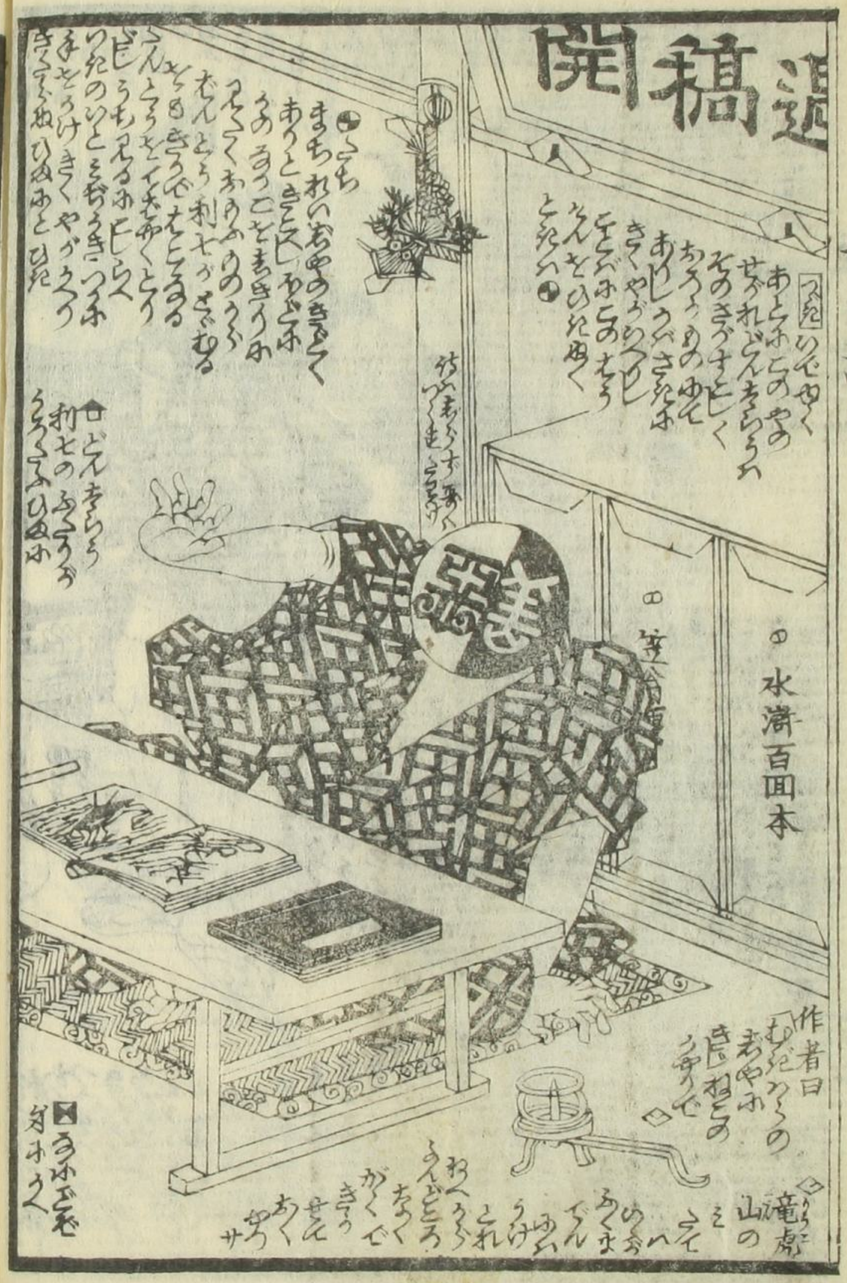


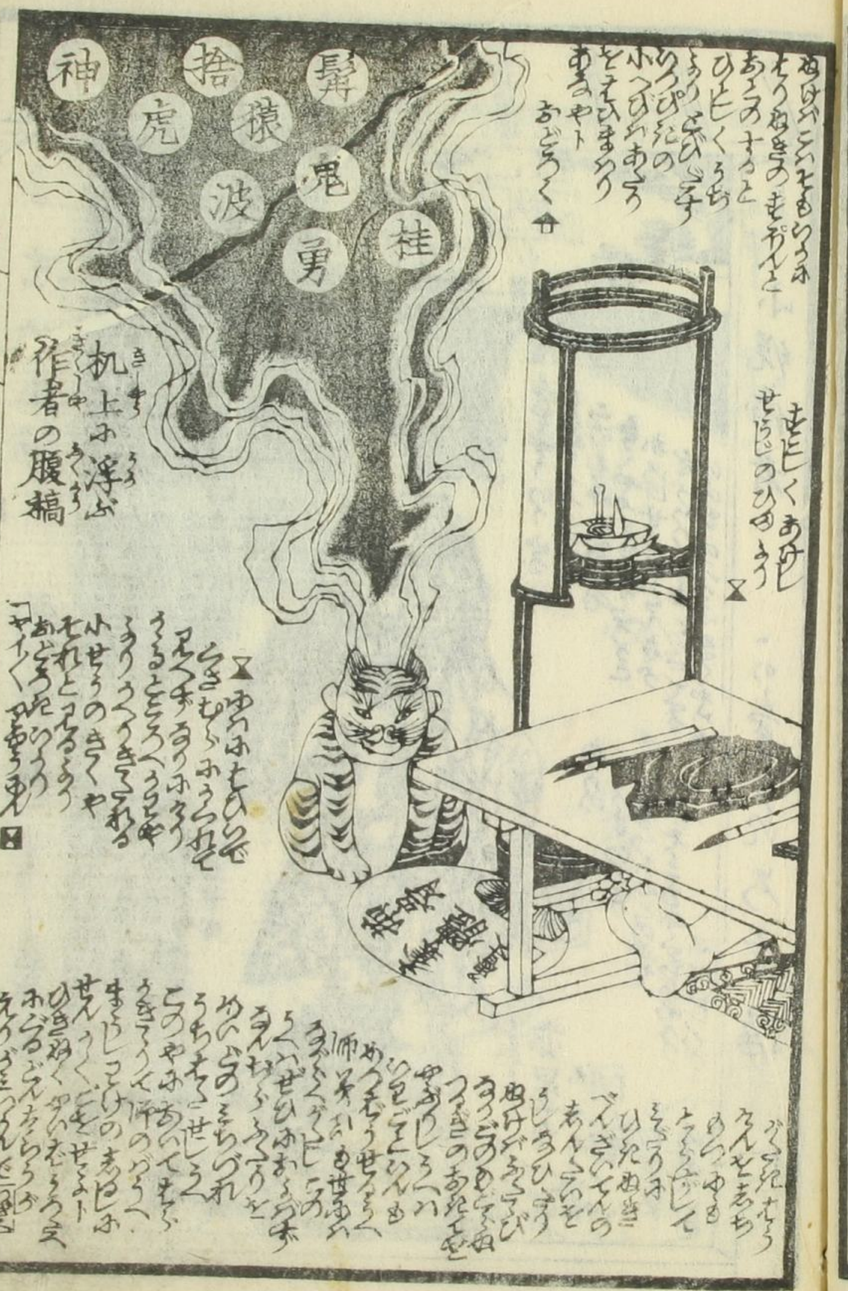
娘白波七
十七
娘白波七
十八

両替
質店

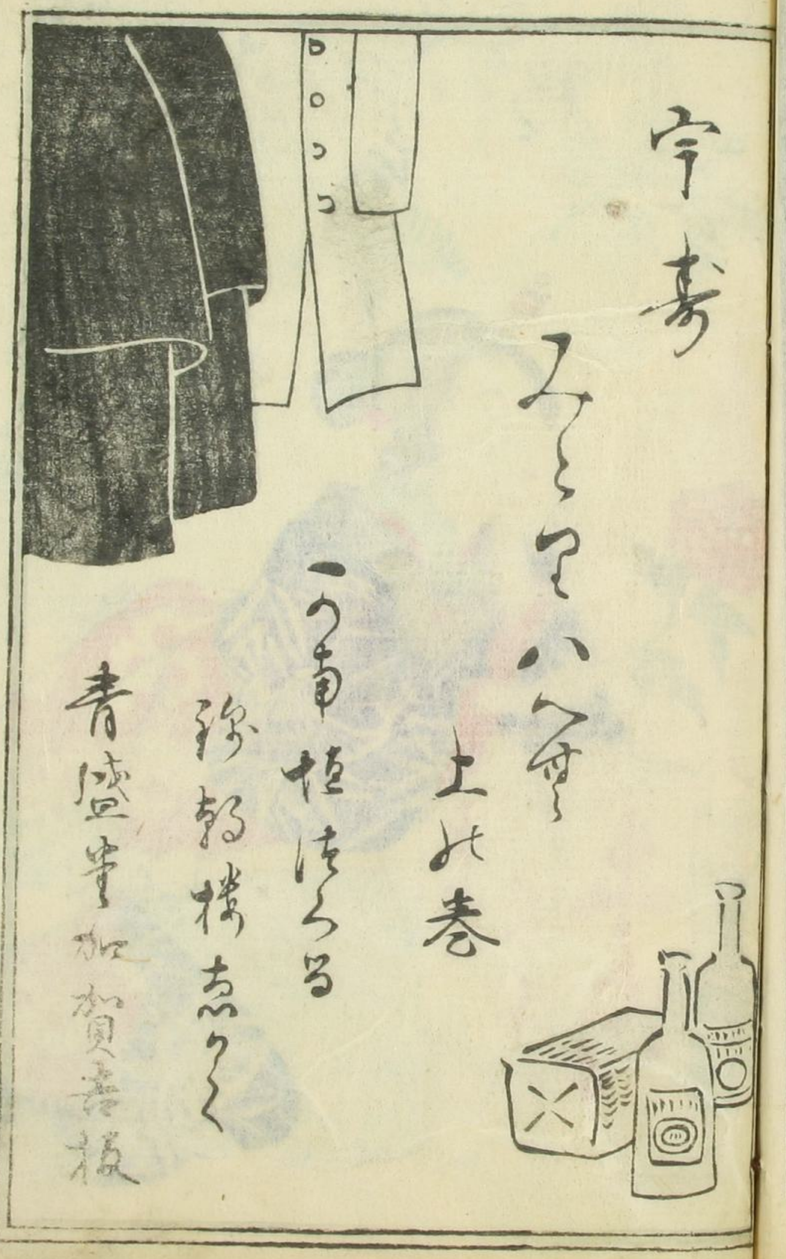
六八

遠稿開



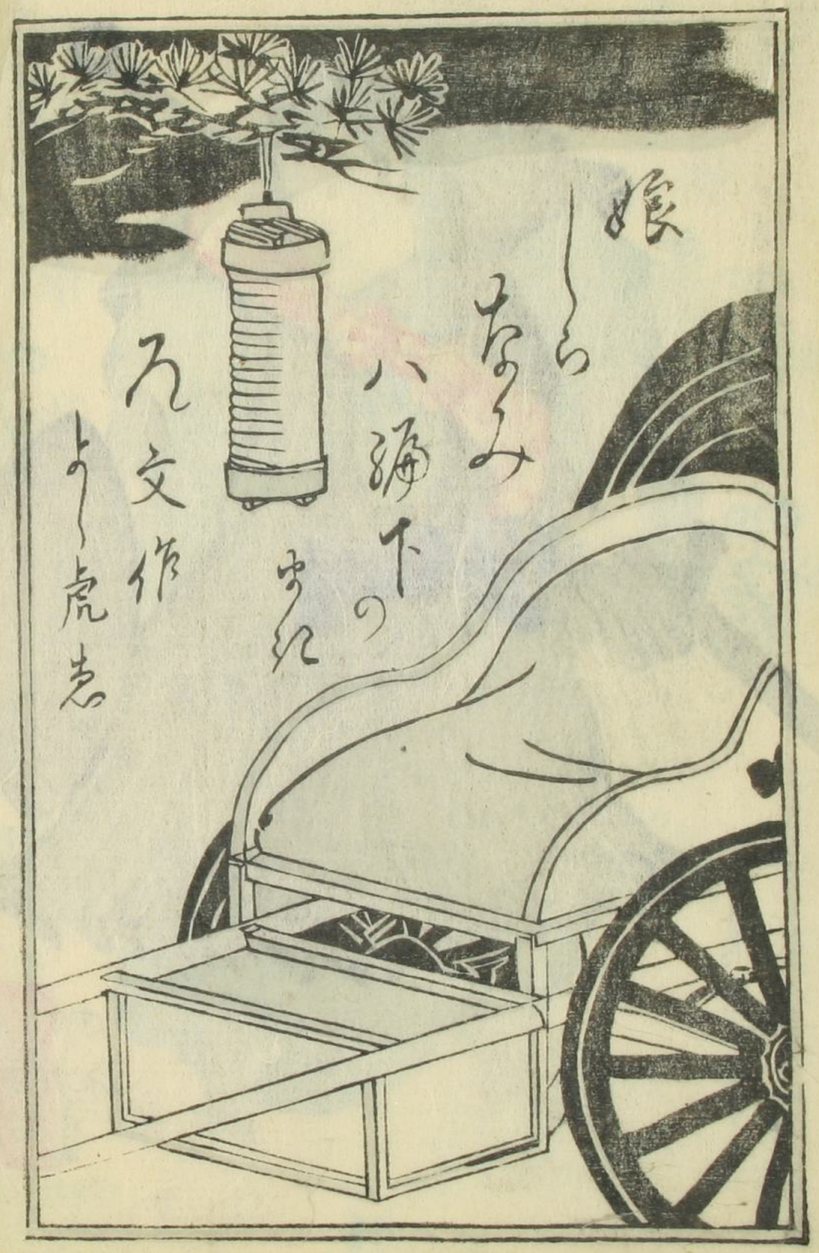


臥龍亭
浮世亜母
彩画楼与虎風
小説作者
この書づくり文海
赤星の阿八百


宇喜
みとり八重
上之巻
一名相法ものがたり
彩画楼志るく
青盛堂加賀喜板

この書ろ紀
魯文作
弥勒横
芳虎画
青雲堂
寿梓
八編下

寿朱実
千寿
寿来
牛肉
八編上



山ゐ隱る緑の林、水ゐ泊白波。ぐるもてのの人ゐ、ゐ、ふざりゐる。
力をも用ひて。干引の巖をも轉ばし。目ゐ觸ぜ形容を
隱し。猛き捕兵をも打破る。幻術あり。此術妻くい山賊
海賊など用ひにゐる。ゐ〳〵〳〵褌垂の保輔ゐん。盜賊乃
首領なりゐる。又熊坂長範と号もありゐる。褌垂い熊坂が
上ゐ立んと難く。長范い保捕が下ゐ立んとゐんゐゐる。
其熊坂と褌垂を。茲ゐ一部の趣向として。物見の阿松ゐ柿の木
禁捕。緑林白波の一對競。柿八年の八編を松としきけば看官を
てのゐぎく花主をよびざゐめこのこと

辛未季春

紀の魯記

海上
浮楼閣
蜃中
一行氣
来山人題

強盗の張本
柿の木
禁捕

古今集
わたつ
海の
深の
海士
こうぞ
つく
君が
あと
せの
あり
ふり
せん
よとは
ちぎり
ば

物見の
阿松

歸元
一百八個供養塔
應仁戰死之霊
此画解
後回を読と知るべし
鬼坊主勇典

白波八人
書生

牛肉
出店
内ばりやく 黒牡丹
メリキ
牛乳
タケリ
牛膳
スツプ
白牛
らく
日の出
出店
牛肉一斤
金三朱

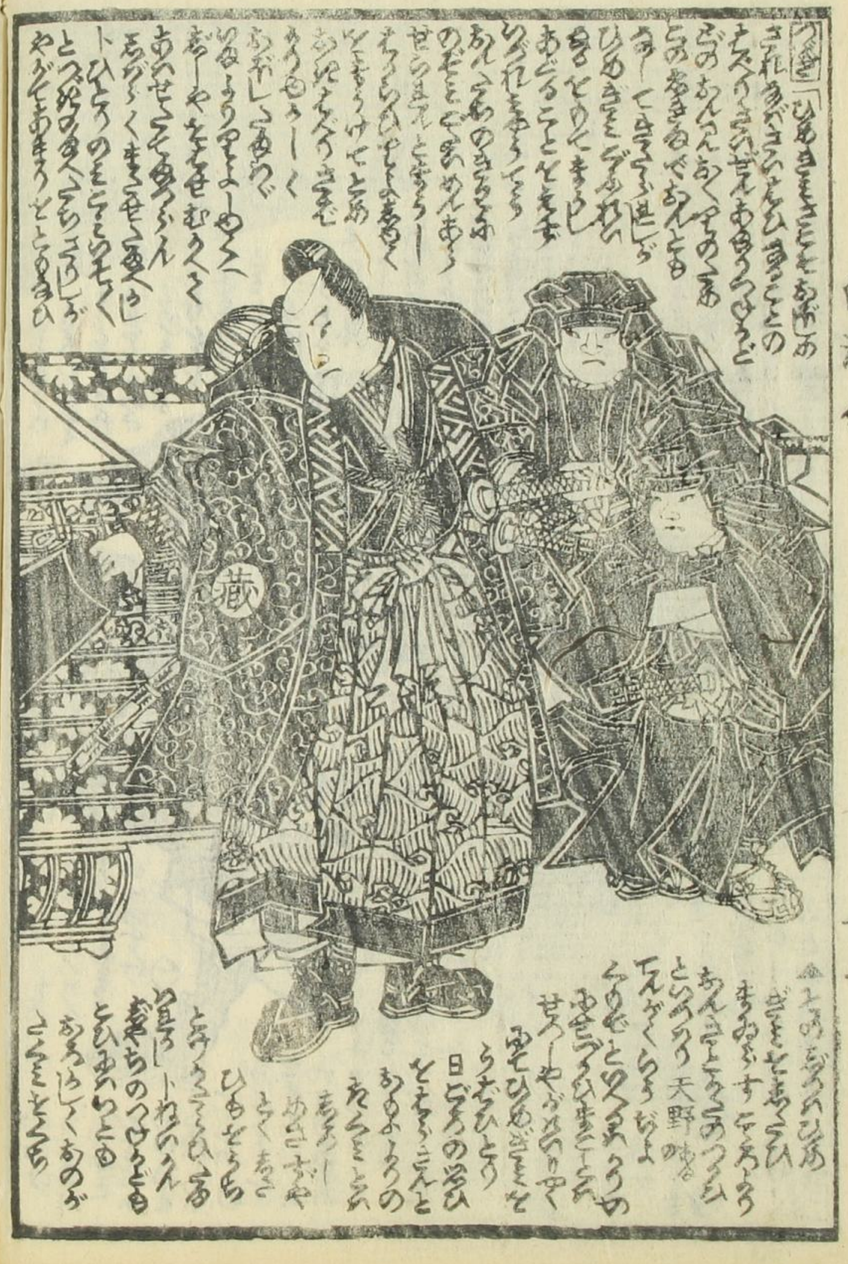
御免
人力車

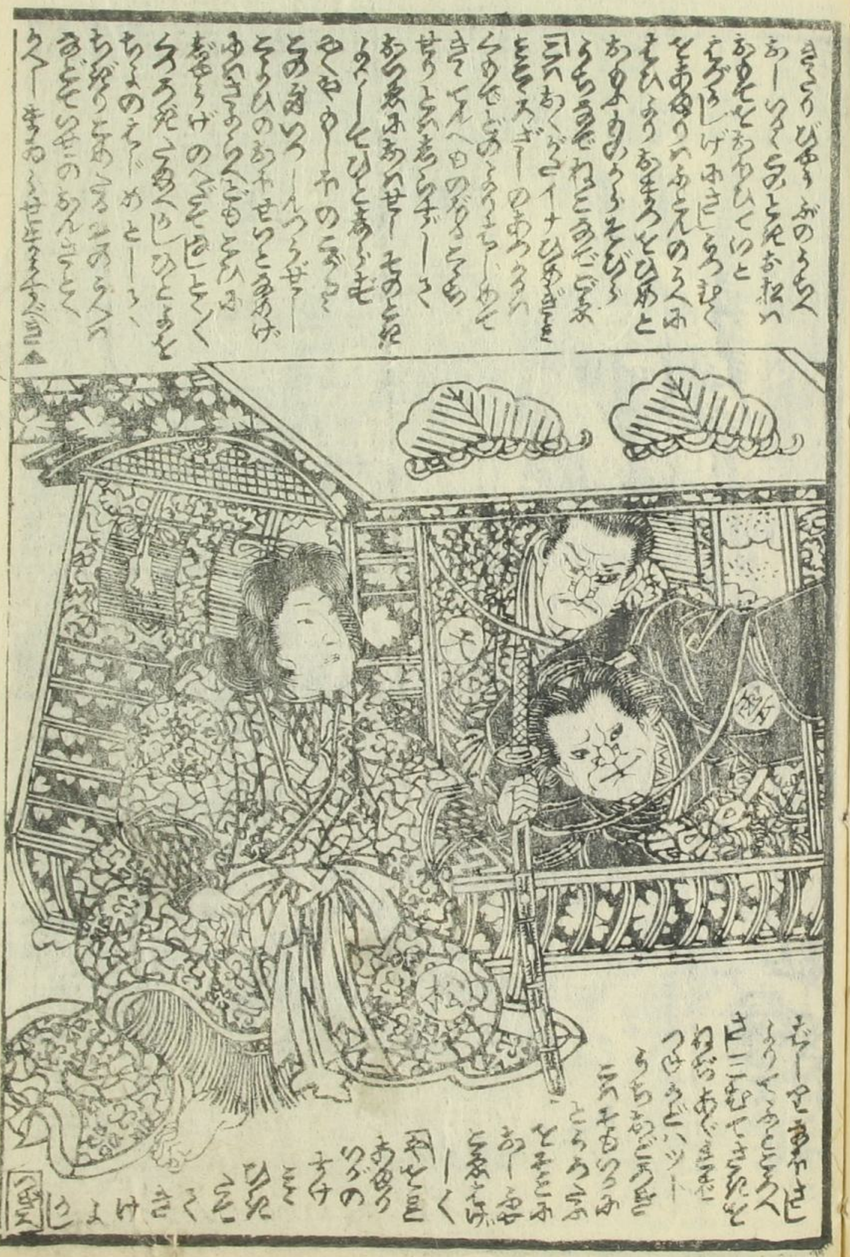
修
依羅嶽助の餘
阿竹阿梅等も此処
お在べきなれとこゝる
暫し休憩せり

伊

魯文作
芳虎画

つゞき
上の巻七丁目より
○さるほどに
伊
ドロンドロン





○姫の繪解後ハ
伊賀之助が物語
しる知るべし

侠客富山
筆海硯
薄緑白浪

▲らうそ
ちふ

神力谷五郎
河
毒

牛車大八
宗

九編の
繪解
何者欲

假名垣魯文著

錦朝樓芳虎画

010190518200

薄緑娘白浪筆八編

假名垣魯文著
錦朝楼芳虎画

辛未春　青盛堂板